

J. F. OBERLIN

# 桜美林大学

# 環境報告書

概要版



2018年度版



## 桜美林大学での環境の学び

### ECO-TOP プログラム

ECO-TOPプログラムとは、東京都が2007年度から設けている、“自然環境に軸足を置いたジェネラリスト”を育成する人材育成・認証制度です。桜美林大学では、2009年度に都の認定を受け、2010年度よりプログラムがスタートしました。

桜美林大学の学生であれば誰でもECO-TOPプログラムに登録することができ、所定の科目（インターンシップを含む）を履修して単位を取得すれば卒業と同時に東京都より知事名の修了者登録証が授与されます。修了者は卒業後も東京都からフォローアップがあります。

プログラムの特徴の1つは、自然科学だけでなく、社会科学・人文科学分野の科目の履修も義務付けられていることです。もう1つの特徴は、民間企業、NGO・NPO、行政における合計20日間のインターンシップを通じて、実務やフィールド調査を体験できることです。インターンシップの成果は、学内の報告会のほか、認定大学による合同報告会で発表されます。



エコプロダクツ2017にて

### 卒業生の声

ECO-TOPプログラムを続けて「環境」という1つのテーマのもとで身体を通じてじっくり学べる点が良かったです。

学び（インターン等のフィールドワーク）に自ら働きかけることで身の周りの環境を見つめ直すきっかけとなり、体験を相手に伝えることでより理解が深まると同時に、社会人に必要なスキル（コミュニケーション、アポイント等）を得ることができたからです。

社会人として学んだ知識を用い、現状を理解した上で多角的な視点から物事（当たり前を疑う、負荷を覚悟の上で何が得策か等）を考察し、自信を持って提案していきたいです。



ECO-TOP合同都庁発表会にて

## 桜美林大学での環境の学び

### 環境系のゼミ



#### 地球科学専攻 坪田ゼミ

私たち坪田ゼミは、気象学を扱っています。今年は、気象予報士試験の勉強をみんなですて、学科試験、専門試験、実技試験の中で1つでも合格することを目指しました。合格率が約5%と非常に難関の試験なので、今夏の気象予報士試験は、苦戦しましたが、反省点を活かし、合格のために日々勉強に励んでいます。また、毎週雲の写真を撮り、今週の雲として毎週水曜日のゼミで発表をしています。卒業研究では、関東地方の雪について、湿度、地上気温、上空

気温など、気象庁の過去のデータから関東地方ではどのような雪質で大雪が降っているのかを雪水比を出しながら考察しています。天気予報では、気象庁が適中率を上げることに苦戦している分野であるため、非常に難しい研究テーマですが、これに負けずに日々データを見て、Excelで雪水比と気温の関係の散布図を作るなど、日々励んでいます。



#### 環境学専攻 藤川ゼミ

藤川ゼミは環境学とともに社会学も学んでいるゼミです。今年のゼミ生（3年生）は社会学を専攻している学生が多いです。アンパイアについて・ラノベの世界について・人工物と自然の融合についての都市計画・サッカー小学生の指導などのテーマを扱っていて、環境学専攻は少ないです。ゼミでは基本的には個人のテーマに対して自身で調査し、それについてディスカッションをするときもあります。また、みんなで一つの論文や本を読んでもらい、みんなで突っ込みを入れてもらうこともしています。そうすることによって、

“みんなで話することができる癖”をつけることが大切であると思っています。今の4年生は、3年生の時に「大学生の意識」に関して自分たちのテーマに関連したアンケートをSPSSというソフトを使い、みんなで作ったりしました。ゼミの雰囲気としては気ままに穏やかに学ぶことができるといった感じです。そのような中で、社会学を学ぶには“勘どころ”が重要なので、それを磨くことを意識しています。



環境に深く配慮した真のエコ・キャンパスの創造に向けて、学生・教職員が一丸となった取り組みを。

学長ご挨拶

2018年度版桜美林大学環境報告書を発行いたします。本環境報告書では、2017年度の本学のエコ・キャンパスの現状や大学・学生の取組をご紹介します。

2017年度には、大学全体でごみの分別方法を変更して、より適切にごみ分別が行われるように改めました。2017年4月から、町田キャンパスとプラネット淵野辺キャンパスで完全実施しており、新たに設置した5連または6連のごみ箱によって、誰でも容易に分別を実施できるようになっています。2017年度はまだ実施初年ということもあり、目に見える数値面での大きな変化には至っていませんが、ごみ回収を担っていただいている会社への受け渡しがスムーズになった点は、改善の成果といえると思います。学生や教職員がごみを正しく分別することを通じて、環境への意識を高めることができれば、地球温暖化に代表されるさまざまな環境問題に対して、真のエコ・キャンパスを創造し、環境負荷を低減していけるものと考えております。

大学全体としては、キャンパスの移転等の動きがまだ進行中であることから、環境負荷の大幅な削減をすぐに実現することは難しい面もありますが、今後も真のエコ・キャンパスを目指して取り組んでまいり所存です。

エコ・キャンパスの推進及び環境報告書の作成にあた



り、本学の片谷教孝教授、藤倉まなみ教授の専門的な指導のもと、本年度も、学内公募に応募した大学生が編集に参加し、学生による手作りの環境報告書を目指しました。夏休み中のオープンキャンパスでは、学生編集委員がさまざまな取り組みを紹介するなど、対外的なアピール活動も実践しました。

この環境報告書を通じて、学内の学生や教職員はもとより、本学が日頃よりお世話になっている学外の関係機関の皆様や市民の皆様に、本学の取り組みをご理解いただけることを願っております。

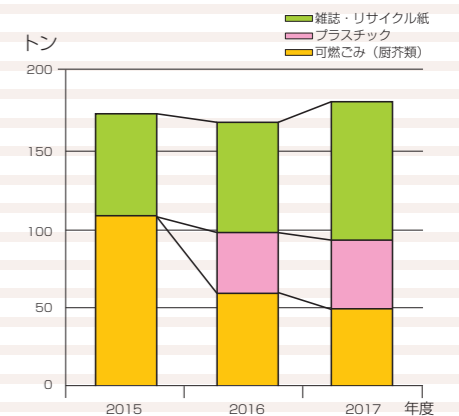
桜美林大学 学長 畑山 浩昭

## 桜美林大学の環境への取り組み

### 町田キャンパス2017年度のごみ分別について

2017年度は、ごみ排出量が増加してしまいましたが、可燃ごみの割合が減少しています。昨年度の雑誌・リサイクル紙：42%、プラスチック：22%、可燃ごみ：36%にたいして、今年度は雑誌・リサイクル紙：47%、プラスチック：25%、可燃ごみ：28%でした。

分別の割合から、可燃ごみとして捨てられていたものが、適切にリサイクルされるようになったのではないかと考えられます。





授業名：国際協力フィールドワーク フィリピン

担当教員 伊賀野 千里

### 授業の概要

事前学習、現地研修、事後学習、発展研究論文執筆という構成で実施しています。フィリピンは、近年経済発展が進む一方で、貧困問題や、特に都市部の環境問題等が大きな課題となっています。こうした中、同国では、政府、NPO/NGO、国際ドナー等が地域住民と協力して問題解決のため様々な行動、活動を行っています。本授業のフィリピン現地研修では、現地の貧困問題に取り組むNPO/NGOの活動に参加します。都市部のストリートチルドレン、高齢者、障がいを持つ方々の保護施設での活動やスモークマウンテンと呼ばれるゴミ山があった地域でのホームステイを通し、自らの五感を使って、また現地の方々と触れ合うことを通して、自分にできる国際協力とは何か、開発とはどうあるべきか、を考えます。帰国後の事後学習では、報告書を作成し、報告会を行います。更に、本研修での学びを深めるべく、教員の指導の下、課題を設定し論文に取りまとめます。現地研修の学びを言語化することで、今後の行動に結びつけます。



### 授業を通して学生に伝えたいこと

途上国の問題を「他人事」ではなく「自分事」として捉え、考え、行動するきっかけとしてもらえたらと思います。

この授業の現地研修では、フィリピン都市部の貧困地域に暮らす人々と共に過ごし、語り合うことを大切にしています。「途上国の人はかわいそう」「何かをしてあげたい」という気持ちで、この授業を履修する学生が多いのですが、フィリピンでの現地研修後は「フィリピンの人から家族や身近な人を大切にすること、愛することを学んだ」や「何かをしてあげたいではなく、彼らと一緒に問題解決に取り組める人になりたいと思うようになった」と意識の変化が表れる学生が多数います。途上国の環境に身を置き、現地の人と交流する中で彼らから学び、「遠い国の貧困問題」を「自分の問題」として考え、行動する手がかりを掴んでもらいたいと考えています。



### 授業を履修した学生の感想

現地研修では、フィリピンが抱える問題を自分の五感で感じ、学ぶことができました。事前学習でも学びましたが、特に宗教、歴史的背景が現代の問題に深く関わっていることが現地へ行くことでより深く理解できました。実際に現地へ行き人々とふれあい、その人たちの立場となることで見えてくるものがたくさんあります。この授業では、物事を多方面から学び、自分たちで考えることがとても多く、一生に残る素晴らしい経験をすることができました。(LA学群2年女子)

## 桜美林大学の環境にかかわるサークル活動



### アグリアクション

Q. どのようなサークルですか？

大学の畑で野菜を栽培しています。代表・副代表4人をはじめとして、約20人が入っています。大学祭を機に代替わりするので、4年生の活動は任意となっています。



### アグリベラル・マルシェ

主に明々館1階で野菜を売っています。「農のそばへ一歩」というキーワードをもとに、ただ野菜を売るのではなく、農家さんに直接来てもらい、生産者と消費者が話し合える場づくりに努めています。

Q. 今までどのような活動をしてきましたか？

毎年学期ごとに活動時間を変えています。メンバーの空きコマで活動予定を立てています。今年は、夏野菜(トマト、ナス、キュウリ、ゴーヤ、唐辛子)、しし唐、ブルーベリー、しそ、さつまいもを育てています。さつまいもは大学祭で、芋けんぴやサツマイモチップスなどに加工して販売したり、直売もしています。

2018年5月にけやき広場に羊を呼びました。広告的な意味があり、連れてきました。6月には母の日に大切な人へのメッセージを対価に野菜を交換するイベントも行いました。

## 桜美林大学の環境にかかわる社会貢献活動

### 境川クリーンアップ作戦

2017年7月30日に行われた、相模原市・町田市が後援する「境川クリーンアップ作戦」に本学からは、学生と教職員合計1,424人が参加しました。このイベントは、町田市と相模原市の間を流れる清掃活動を通して、咸鏡保全だけではなく、生活圈や経済圏を共有する町田～相模原の行政区分を超えた交流とまちづくりを目指した活動です。作戦当日は、生憎の雨でしたが各会場ごと、境川の美化に取組みました。この清掃活動を通して、本学がキャンパスを置く、町田・相模原両市の近隣自治会や参加団体の方々との交流が生まれました。

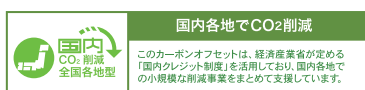




# J. F. Oberlin University

表紙の写真：学内に設置された大型分別ごみ箱

桜美林大学では2017年度からごみ分別方式を変更し、学内に写真のような大型の分別ごみ箱を設置しました。写真のタイプのほかに、やや小型のプラスチック製分別ごみ箱もあり、設置場所に余裕がない場合などに活躍しています。



この報告書は、FSC®認定紙とNON-VOCインキ、水なし印刷を使い、日本印刷産業連合認定「グリーンプリンティング工場」で作りました。

製作に伴い1部あたり168gのCO<sub>2</sub>を排出しましたが、国内クレジットを用いて、その全量をカーボンオフセットしています。

リサイクル適正 (A) この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

2019年3月

編集：桜美林大学学長室

発行：桜美林大学環境報告書編集委員会

<http://www.obirin.ac.jp>

この環境報告書へのご意見をお寄せください

[kanken@obirin.ac.jp](mailto:kanken@obirin.ac.jp)